

正誤表(第1版⇒第2版)

美しい街路樹をつくる - 樹形のつくり直し-

第1版から第2版へは下記の通り改訂致しました。

第1版と区別するために、第2版の背表紙の団体表記は 法社 人図 となっています。(第1版は 社 団 法 人)

ページ	(誤)	→	(正)	番号
2		→	約7300名	
9	上から10行目 (目次)	→	アメリカフウ	
13	上から3行目	→	植栴	
29	図2-3	→	吹き出しが空欄	
37	左下写真とコメントの差し替え	→	吹き出しの中に C02 の文字が入る	
57	上から6行目	→	枯死した後、補植が行われていない植栴	①
59	表4-1 コメントの追加	→	枯死した後、補植が行われず、支柱だけになり、雑草だけが茂っている植栴	
67	図4-9 補足説明	→	優性生長	
68	下から7,9,10行目	→	プラタナス (スズカケノキ) ハナミズキ (アメリカヤマボウシ)	
69、70	写真、図、レイアウトなどの変更	→	ハナミズキ (アメリカヤマボウシ) プラタナス (スズカケノキ)	
73	図4-12 差し替え	→	アメリカハナミズキ	
75	図4-13 差し替え	→	アメリカヤマボウシ	
75	最下段写真のコメント	→		⑬⑭
81	右写真 差し替え	→	イラストを変更	②
88	上から5行目	→	図中の汚れを消去	③
89	上から1行目	→	伸びている方向の良い枝を5本残す	
89	上から8行目	→	伸びている方向の良い枝を3~5本程度残す	
94	上から1行目から3行目 差し替え	→	より適切な写真に変更	④
94	図5-19, 5-20, 5-21 差し替え	→	①こぶのそぎおとし(切返し剪定)による取り除き	
97	図6-1 差し替え	→	②切返し剪定によるこぶの取り除き	
98	図6-2 差し替え	→	③切詰め剪定によるこぶの取り除き	
99	図6-4 差し替え	→	なお、樹木や架空線は、風による動きがあるので、こうした部分の余裕の確保と、架空線に保護材を付設するなどの対応も必要ですが、保護材の取り付けは、それぞれの架空線の設置者での作業となるため、施工者がこうした作業を行う必要はありません。	
103	図6-10 差し替え	→	なお、樹木や架空線は、風による動きがあるので、架空線との十分な余裕が必要です。また、架空船の電圧などの確認や場合によっては電気事業者によって、保護材を付設する場合があります。いずれにしても道路管理者との綿密な打ち合わせが必要です。	
106	図6-13 差し替え	→	イラストを変更	⑤
108	上から1、17行目	→	絡み枝を修正	⑥
108,109	図6-15 差し替え	→	絡み枝を修正	⑦
108	図6-16 タイトル	→	管理目標樹形との比較の線の位置	⑧
109	図6-15 タイトル	→	管理目標樹形との比較の線の位置	⑧
110	図6-17 差し替え	→	管理目標樹形との比較の線の位置	⑧
112	図6-19 差し替え	→	絡み枝を修正	⑩
114	上から1行目	→	プラタナス	⑪
114	上から3行目	→	スズカケノキ	
114	図6-21 タイトル	→	管理目標樹形との比較の線の位置	⑫
114	図6-21 差し替え	→	絡み枝を修正	⑬
115	図6-22 タイトル	→	図6-15プラタナスの経年変化想定図	
115	図6-22 差し替え	→	図6-15スズカケノキの経年変化想定図	
120	下から6行目	→	図6-16プラタナスの頂部の仕立て方	
		→	図6-16スズカケノキの頂部の仕立て方	
		→	管理目標樹形との比較の線の位置	⑫
		→	絡み枝を修正	⑬
		→	(6) アメリカフウ	
		→	(6) モミジバフウ	
		→	アメリカフウ	
		→	モミジバフウ	
		→	図6-21アメリカフウ (標準タイプ) の経年変化想定図	
		→	図6-21モミジバフウ (標準タイプ) の経年変化想定図	
		→	管理目標樹形との比較の線の位置	⑭
		→	図6-22アメリカフウ (楕円タイプ) の経年変化想定図	
		→	図6-22モミジバフウ (楕円タイプ) の経年変化想定図	
		→	管理目標樹形との比較の線の位置	⑮
		→	藤田昇	
		→	藤田昇	



①

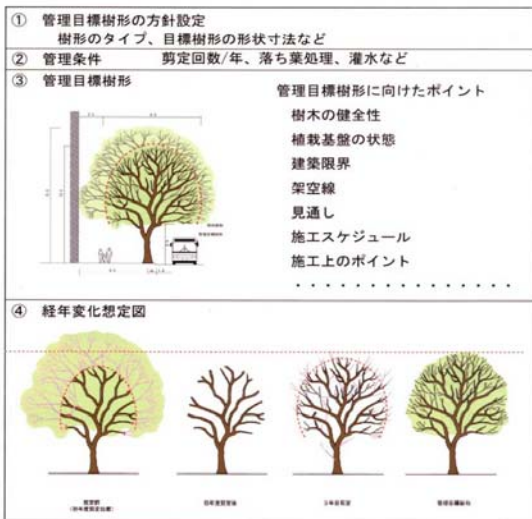


図 4-12 「美しい街路樹づくり」に向けた「管理目標樹形」や「経年変化想定図」などを分かりやすく示した書類例

②



図 4-13 「海の森公園」の土づくりについて

東京都ではごみ処分埋立地を森にする「海の森公園」の整備を進めています。この森の土づくりに街路樹などの剪定枝葉を活用することとしています。剪定枝葉は23区の公園・街路樹だけで年間7万㎡で、これまで約6割がごみとして処分されていましたが、こうしたリサイクルにより、剪定枝葉の有効利用、ごみの削減、CO₂の固定に役立てることが出来ます

③



④

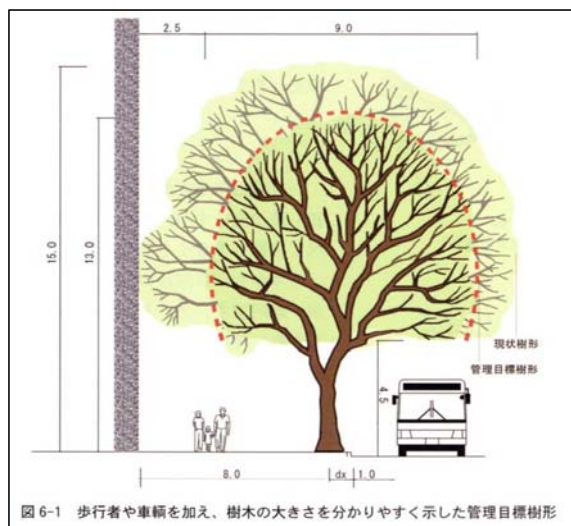


図 6-1 歩行者や車輪を加え、樹木の大きさを分かりやすく示した管理目標樹形

⑥

悪い例

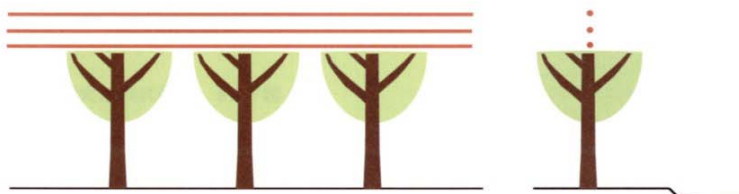


図 5-19 架空線に接触しないように、線下で切り詰めると、美しい樹形にはなりません

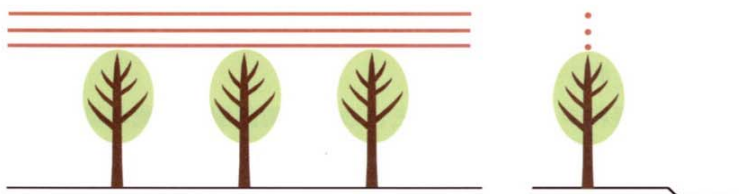


図 5-20 架空線に接触しない高さに合わせて樹高を決めると、樹木全体が小さくなってしまいます

架空線を取り込んだ例

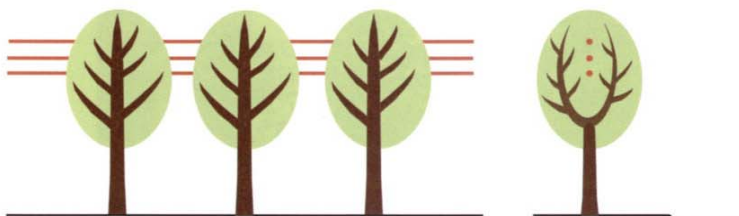


図 5-21 架空線を取り込んだ樹木は、緑量も豊かで、架空線の景観への阻害も軽減できます

⑤

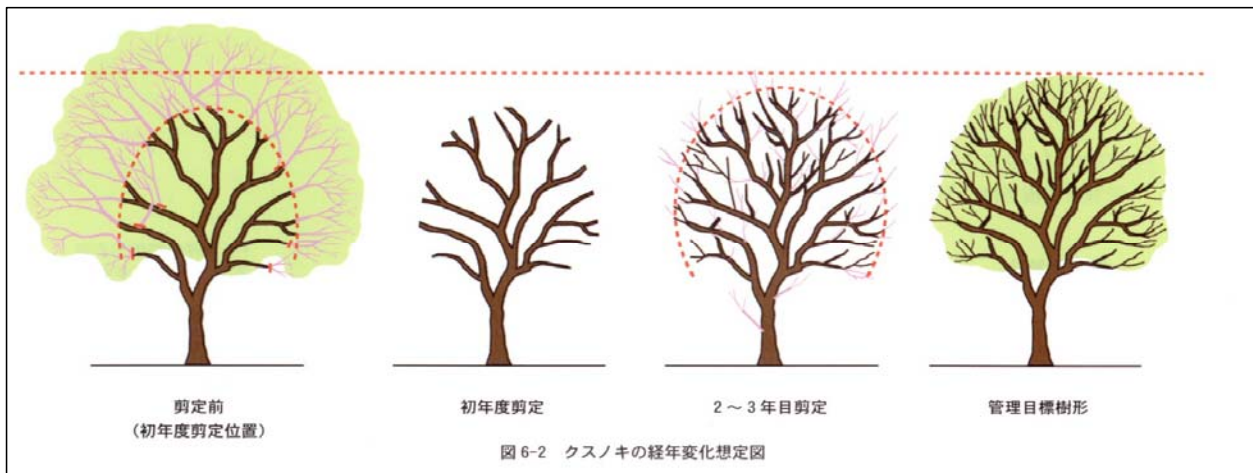
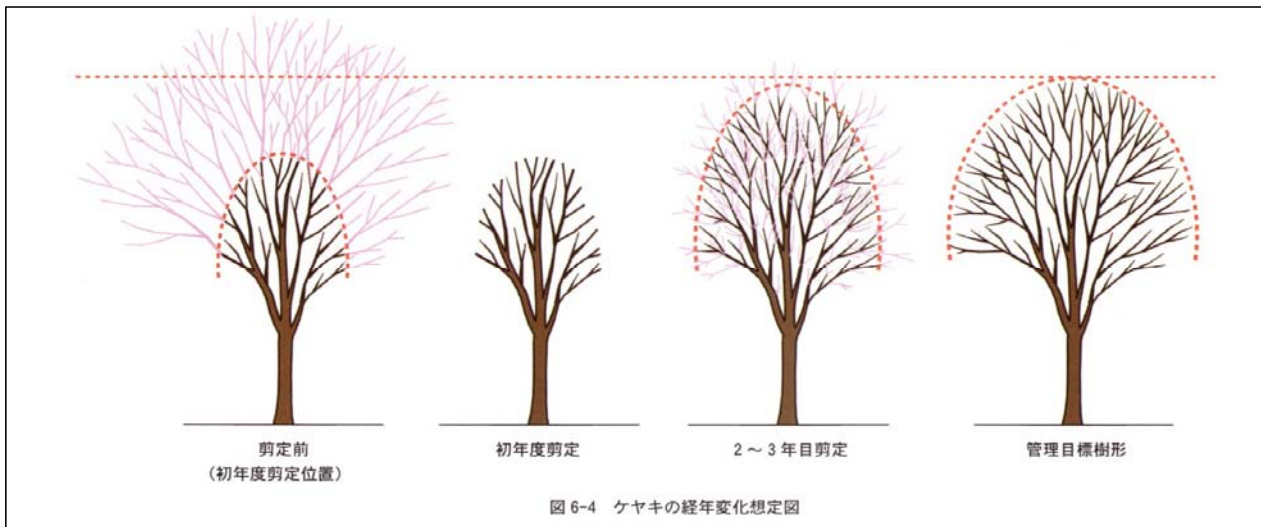
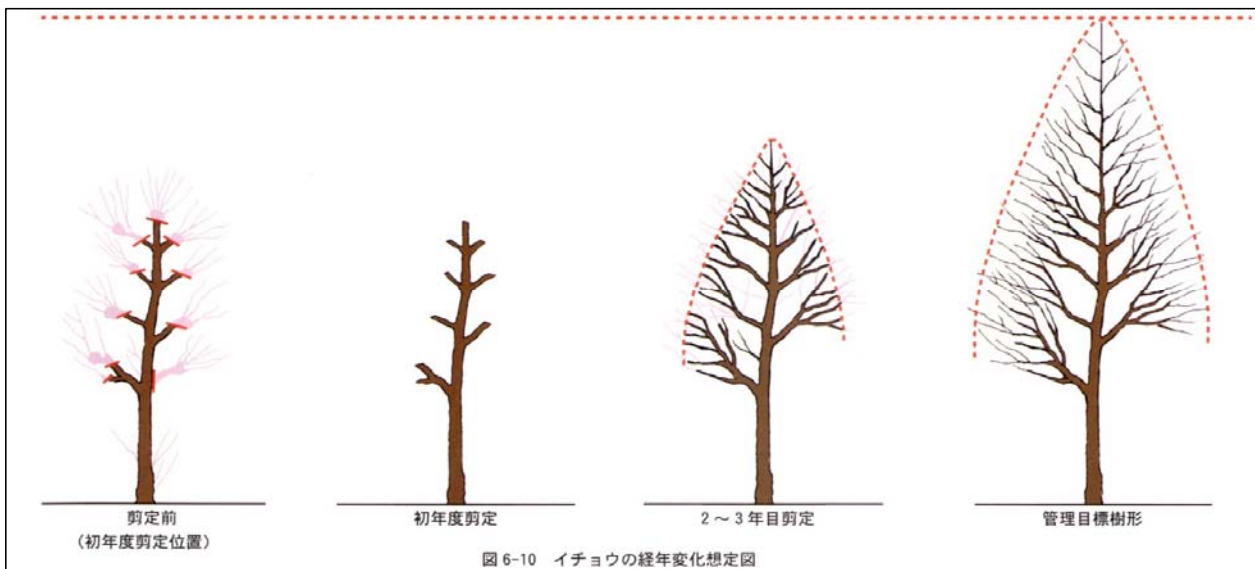


図 6-2 クスノキの経年変化想定図

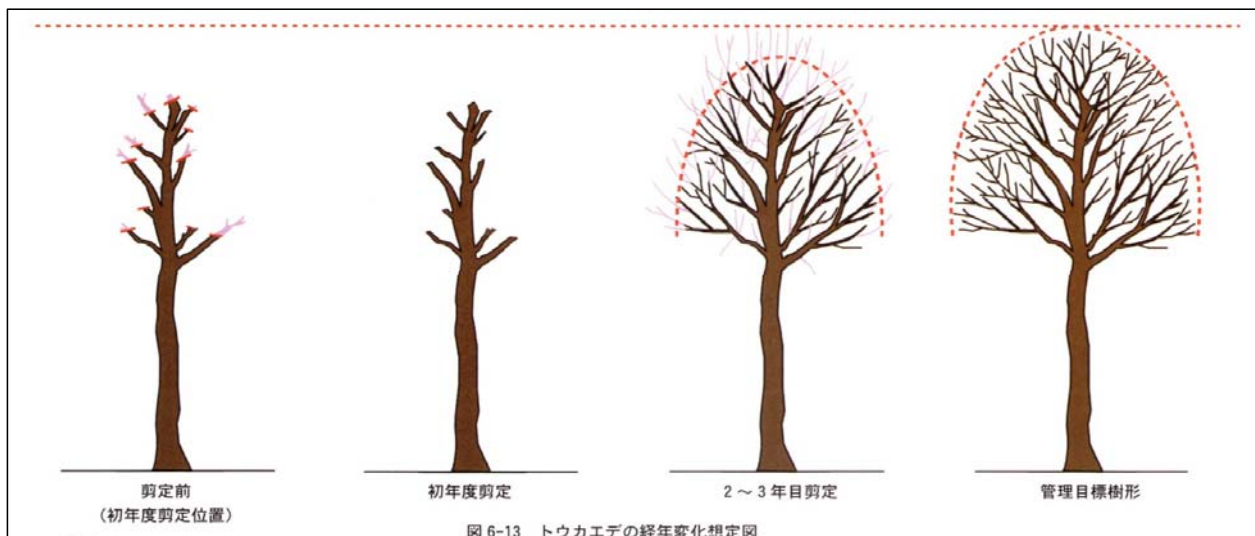
⑦



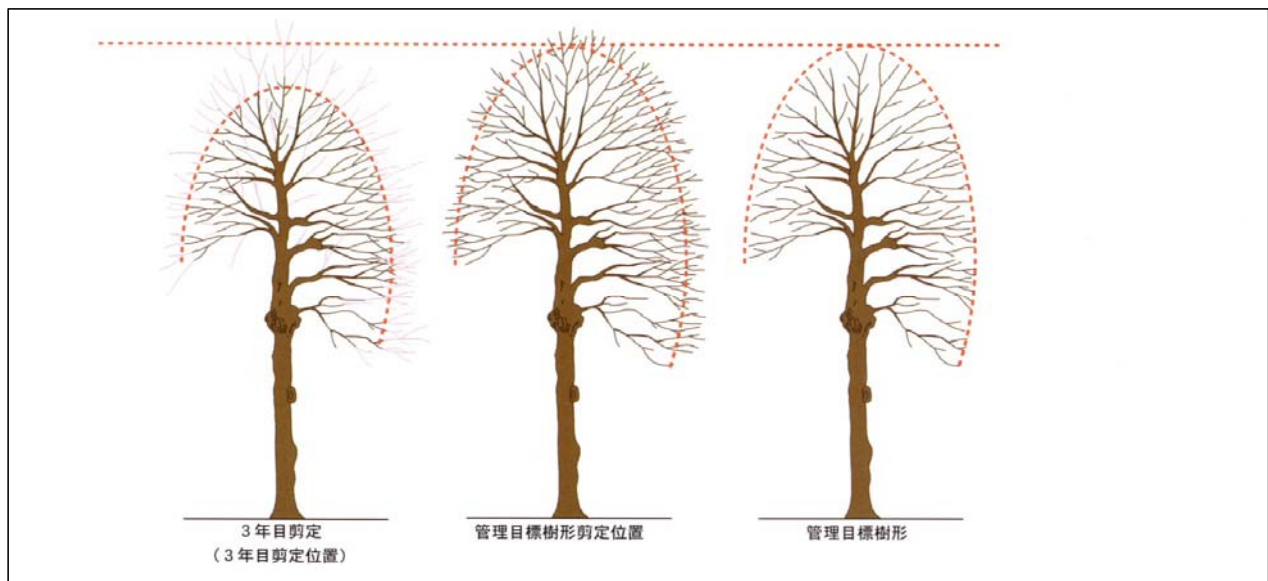
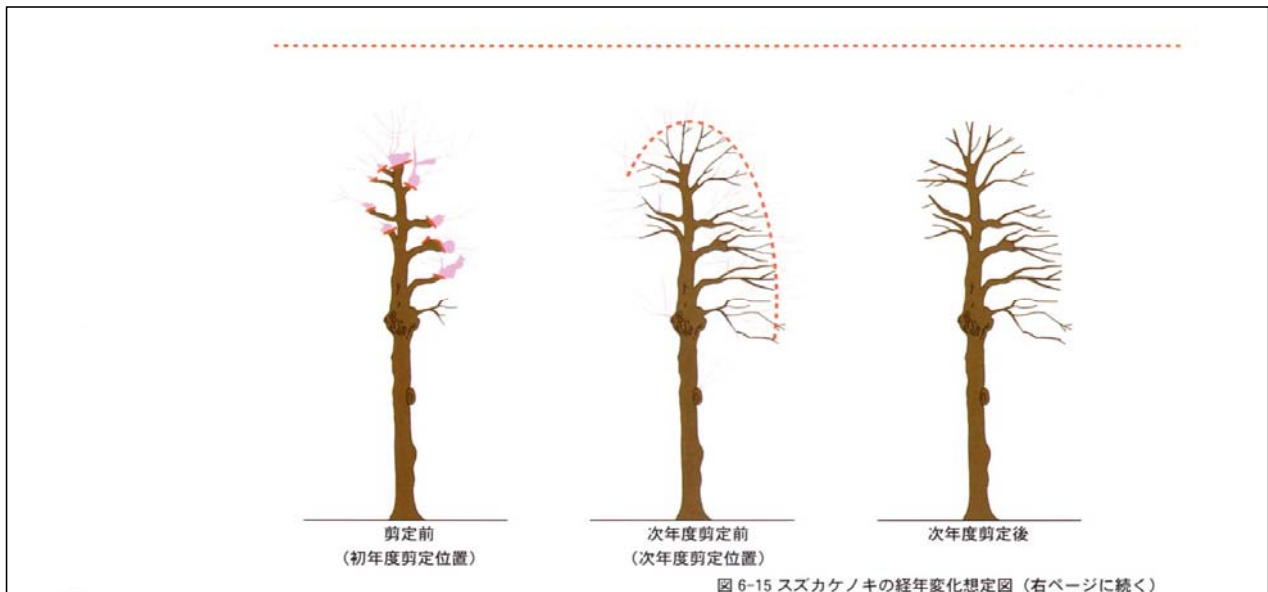
⑧



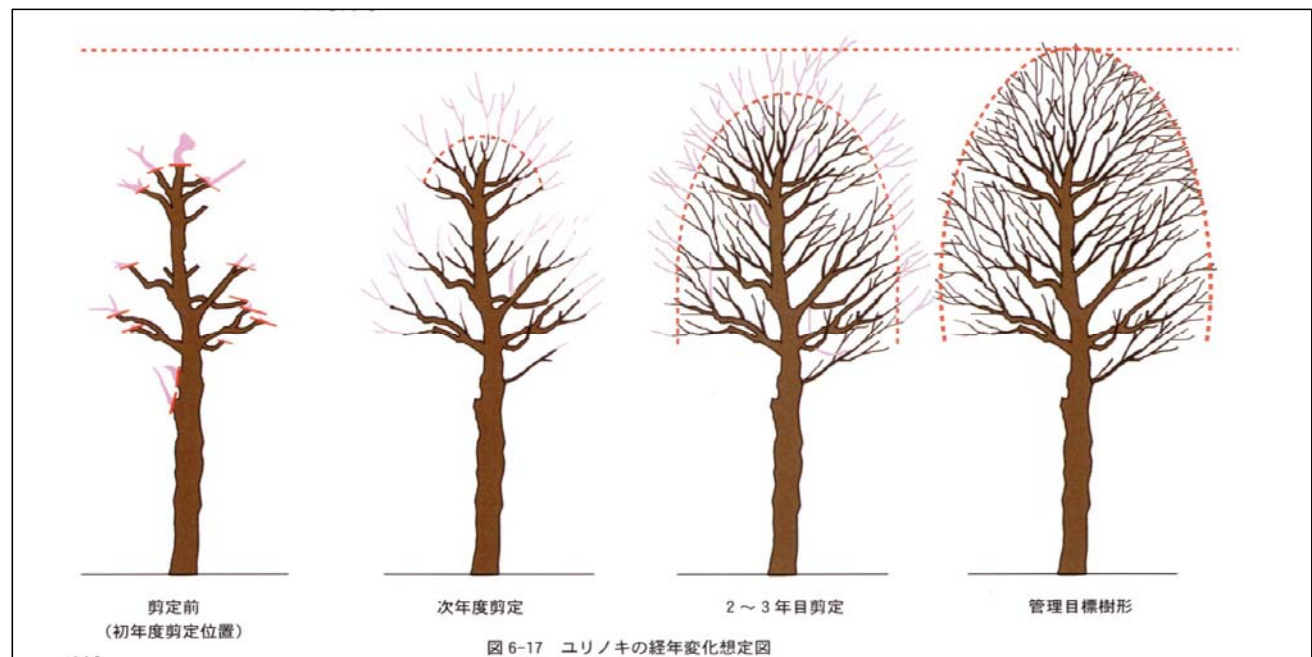
⑨



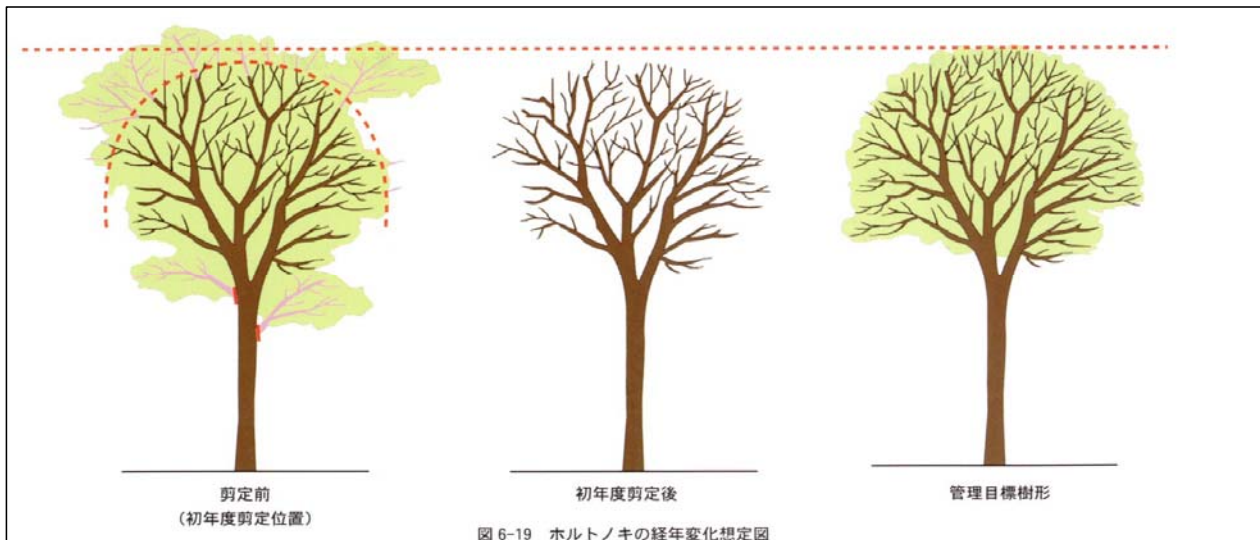
⑩



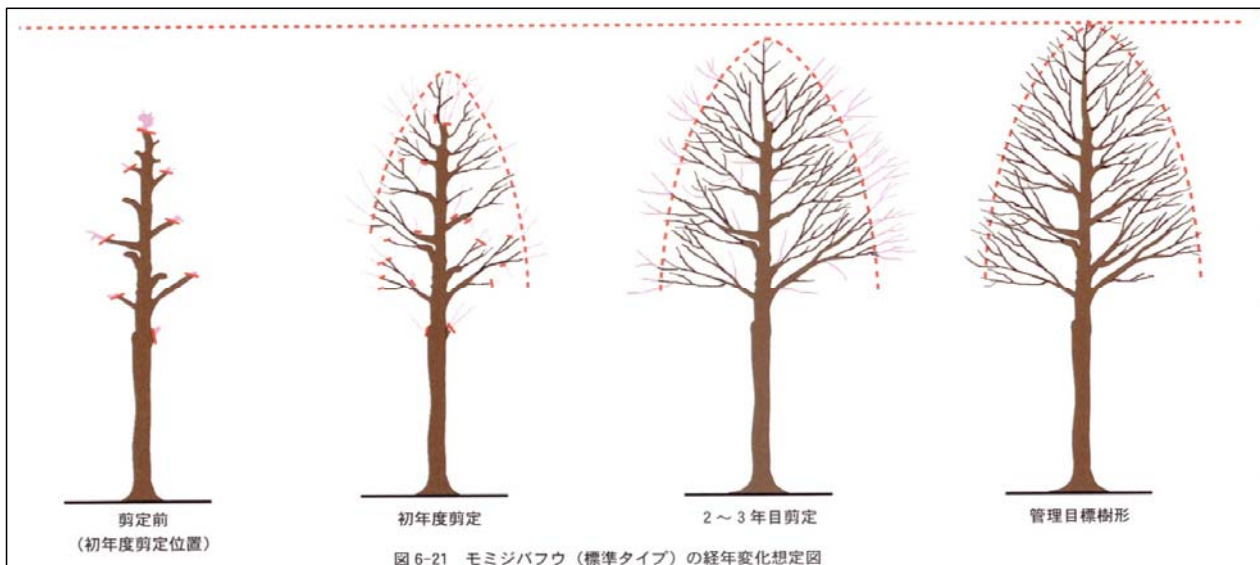
⑪



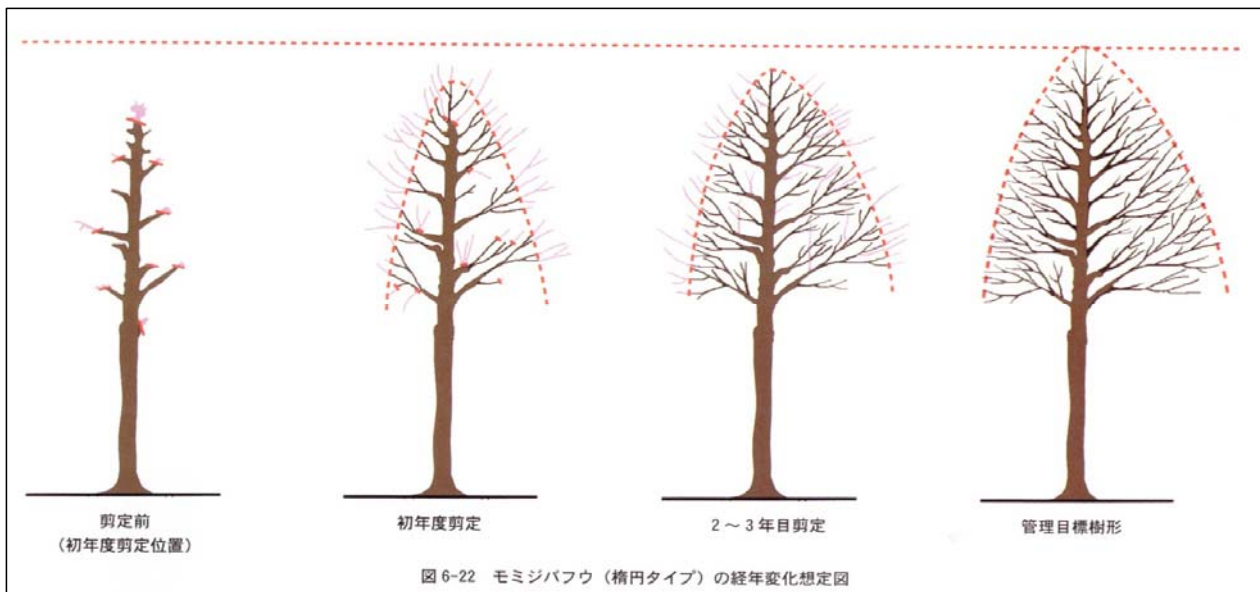
⑫



13



14



15

都市緑化ハンドブック（街路樹編）

美しい街路樹をつくる
樹形のつくり直し

美しい街路樹	第1章
街路樹のさまざまな役割	第2章
美しくない街路樹	第3章
美しい街路樹を目指して	第4章
美しい街路景観を実現する樹形のつくり直し	第5章
樹形のつくり直しの事例	第6章

④ 幹の曲がり

幹の曲がりは、強風による傾きや自動車の衝突などにより、地際から曲がったものと、強風による幹折れや風衝など比較的に高い位置で曲がったものがあります。

地際から曲がったものは、傾いた直前であれば引っ張り起こすこともできますが、放置されたものは、掘り取って植え直すこととなります。しかしながら、限られた植樹スペースでは、根鉢がとれないため、抜本的に直すのであれば、植え替えざるを得ません。

比較的に高い位置で曲がったものは、幹の曲がりそのものを矯正することはできなくても、新たな芯立てや剪定によって、不安定感を取り除くことができます。

⑤ 植栽基盤の改良

植栽基盤*4.に起因する生育不良や枯死については、その程度がひどい場合、植栽後に改善対策を講じることはほとんど不可能であり、抜本的に植栽基盤を整備し直す必要があります。程度が軽い場合は、植樹帯や植樹内の土壌の入れ替えやコア抜きによる根の更新と通気性の確保、圧縮空気の注入による固結層の破砕などがあります。

抜本的な植栽基盤の改修整備は、道路改修と合わせて行うのが一般的で、その場合、特別な対策を講じない限り、車道は道路構造上まったくといっていいほど、根を伸ばす余地はありません。



特殊機械で圧縮空気を土壌に注入し、土壌を掘削せずに固結した土壌を改善します

*4.「植栽基盤整備ハンドブック」：p52
植栽基盤整備の概要

⑥ 舗装の持ち上げ（根上がり）

植物の根による舗装の持ち上げ（根上がり）は、根を十分に伸ばすことができないことから発生するもので、抜本的に解決するには、植栽基盤を整備し直す必要があります。

その場合、根系の伸張を誘導する防根シートなどの利用も考えられます。

舗装の持ち上げの程度が小さい場合は、持ち上げている根を切除し、舗装を平坦に仕上げる方法が用いられます。この場合、倒木の危険性がないかどうか確認する必要があります。

根上がりを防ぐ方法として、防根忌避剤を塗布した不織布などもあり、繰り返し発生する場所などでの利用も考えられます。

また、根元からひこばえ（やご）が多数発生したものを、常に枝の根元で切除していると、こぶ状になり、舗装を持ち上げる原因となります。このため、地下部での切除を行います。その場合、腐朽菌の侵入を防止するため、殺菌剤を塗布する必要があります。



根上がりの現状
人の通行に支障を来たします



根上がりの原因
小さな植え穴で行き場を失った根は、平板下のクッション砂に侵入し、やがて平板を持ち上げます

第1章	美しい街路樹	都市緑化ハンドブック（街路樹編）
第2章	街路樹のさまざまな役割	
第3章	美しい街路樹	
第4章	美しい街路樹を目指して	
第5章	美しい街路樹を実現する樹形のつくり直し	
第6章	樹形のつくり直しの事例	

美しい街路樹をつくる
樹形のつくり直し



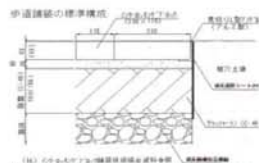
根系誘導耐圧基盤を使用した根上がり対策



既存樹木の根上りの現状



歩道下の路床に入った根を掘り出し、根系誘導耐圧基盤を投入し、タンバ等で転圧する



植え穴と歩道の境界の納め方
(平板下のクッション砂に根が入らないように根系遮断シートを設置する)



埋め戻した後、舗装する

⑦ 根への干渉物

街路樹の植栽基盤条件は、極めて厳しいことから、踏圧による植栽基盤の固結防止や雨水の浸透、酸素の供給、美観や歩きやすさなどを目的として、保護材にて根元を保護する必要があります。

根元保護材には、鋳物製、GRC（ガラス繊維補強コンクリート）製、セラミックス製硬質ブロックなどがあります。車椅子などの通行を含めた歩道利用者が通行しやすい形状で、周囲の景観に調和し、あわせて、ごみや落ち葉が堆積しにくいものとするなど、管理面も含めて選定する必要があります。

この根元保護材も放置されて、保護材が幹の肥大にともない、食い込んでいる状況を多く目にします。定期的チェックするとともに、幹と保護材の隙間が狭くなった場合は、保護材のカットや取り替えを行う必要があります。

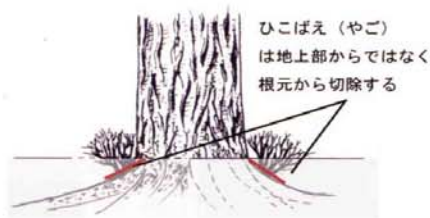


図4-10 ひこばえ（やご）

ひこばえ（やご）を地上部で切除すると、翌年多数萌芽し、これを繰り返すとこぶ状になり盛り上がってくるため、根元を掘り下げ、ひこばえの根元を露出させてから、削り取るように切除します